

当施設の間施設としての機能に関する研究

1. 研究の対象

2015年4月～2016年3月に医療機関から当施設に入所された方

2. 研究目的・方法

老健はさまざまな疾病、入所目的の利用者が存在しており、老健を利用しています。本研究では、当施設が、老健に求められる在宅復帰という中間施設としての役割を果たしているかについてリハビリテーションの視点から検討したいと考え、医療機関から当施設へ入所した方を対象に以下の情報の種類をもとに調査・研究しました。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

入所された方の性別、平均年齢、平均入所期間、機能的自立度評価法(FIM)得点等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒372-0006

群馬県 伊勢崎市 太田町 427-3

公益財団法人 脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース

TEL：027-21-2700

担当・研究責任者

リハビリテーション科 理学療法士 北村裕史